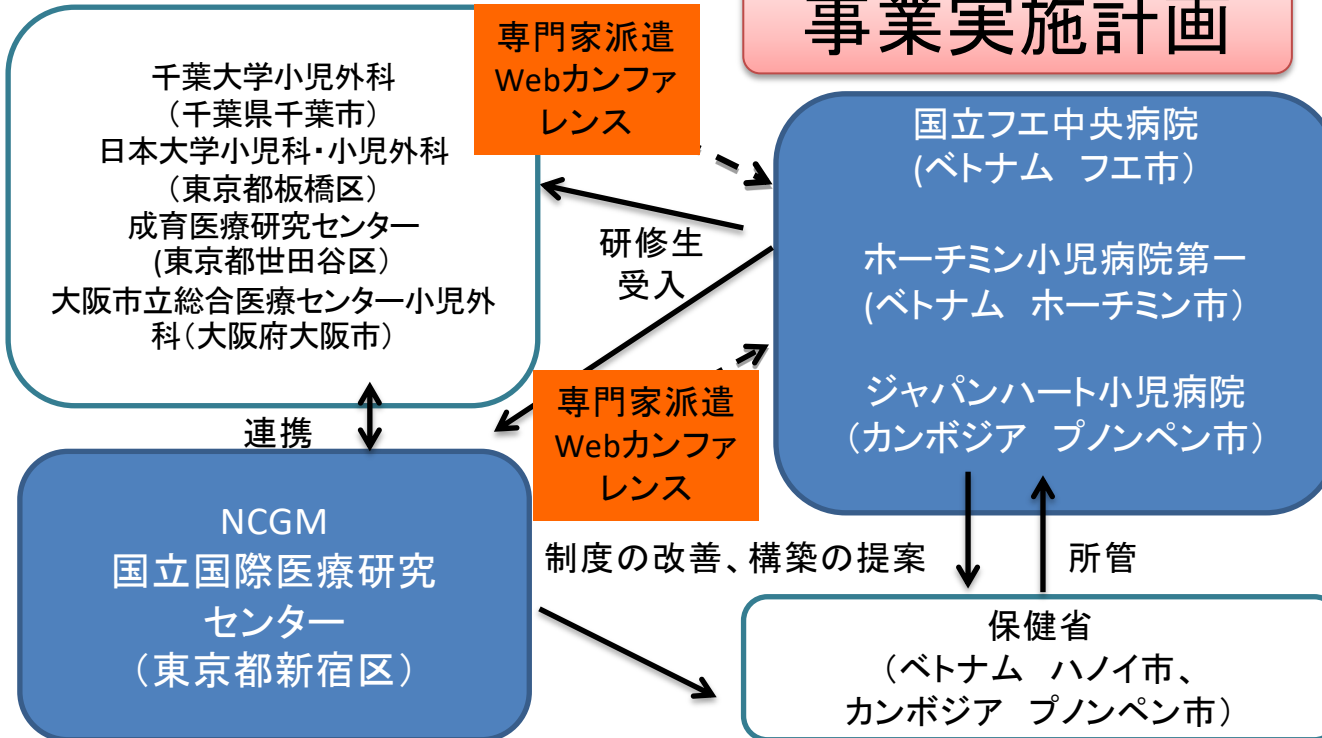


# 低中所得国小児がん生存率向上支援事業(小児がん支援)

- 世界の小児がん患者の8割は低中所得国の子ども達であるが、その8割の子ども達は十分な診断・治療を受けることができずに死亡している。これらの国の医療関係者は小児がんの診断治療の経験が不足しており、研修機会を強く求めている。
- ベトナムのフエ中央病院とホーチミン小児病院第一およびカンボジアのジャパンハート小児病院の医療者に対して、世界最高水準である日本の小児がん医療技術を、国立国際医療研究センターと日本の複数の小児がん診療施設の専門家によって指導する研修を行う。これは小児がん患者の生存率向上のための専門研修である。コロナ流行期にはWeb会議システムを活用し診断治療選択のための小児がん腫瘍カンファレンスを定期的に行うことにより指導する。
- 本事業の実施により小児がんの診断治療技術を習得でき、小児がん患者の診断率と治療開始率が増加する。さらに数年後には施設の小児がん生存率が向上する。その結果10年後程度には国全体の治療成績の向上が期待される。また日本の拠点病院との国際連携が進み、日本を核とした国際的小児がん診療チームの形成が期待され、日本の知財を展開することが可能となる。

## 事業実施計画



### <研修実施計画>

2022年4月～2023年2月 日本と現地病院との間のWeb会議 定期的に月に2回ずつ 3病院と

・遠隔コンサルトシステムによる患者診断治療の検討会

以下は訪問が可能となったら

2022年度 訪日研修生受入4名 3週間(ずつ) ・日本の小児がん医療研修

・疾患・診断・治療の講義  
・腫瘍カンファレンス参加

2022年度 日本人専門家派遣(1週間5名/回X2)

・技術指導・カンファレンス  
・症例相談